

# 雪まるかじりツアー

～かまくらづくり編～

2014年1月4日(土) ～ 1月6日(月)

IN 兎野高原野外教育センター

	午前	午後	夜
1日目	施設に向け出発	雪遊び、土台作り	看板作り
2日目	かまくら作り	かまくら作り	七輪ファイア
3日目	清掃・かまくら解体	施設を出発・解散	

一日目： 施設に向かうバスの車内では、トンネルを抜けるたびに雪深く、白くなっていく外の景色に歓声があがっていました。さらに途中降り出した雨も、到着直前に雪に変わり、皆のテンションは最高潮でした。お弁当を食べ、着替えをして、いざ雪の中へ。一日目はかまくらを作るための準備として、ボール取り、雪玉リレーをしながら走り回り、雪を踏み固めました。走るといっても、いつものような固い地面ではなくふかふかの雪の上。思わぬところで足をとられたり、抜けなくなったり、歩くだけでも一苦勞のところを必死に駆け回りました。夜はグループごとに看板作りをしました。どんなかまくらにしたいかをみんなで話し合い、イメージを膨らませながらイラストを書きました。明日からいよいよ、かまくらづくり本番です。



二日目： 二日目は朝食をテキパキと済まし、かまくら作りへと出発しました。今回は経験者も少なく、なかなか要領がつかめず、かまくら作りは難航しました。午前中に雪山を完成させ、午後からは掘り進めるという予定でしたが、午前の作業終了時にはまだ雪山の大きさが十分ではない班が多く、お昼休憩も程々に、午後は急ピッチで進めました。完成すら危ぶまれましたが、それぞれが役割を見つけ、協力して作業を進めた結果、全てのグループが全員入れるかまくらを作ることができました。イメージ通りであったり、全く違っていたり、それぞれ特徴があり、7つの個性豊かなかまくらが出来上がりました。夜は作ったかまくらで七輪ファイアをしました。満点の星空の下、全力で作ったかまくらで食べるマッシュマロとお餅の味は、格別だったようです。



三日目： 朝食後、施設の清掃を終えた班から続々と外へ。かまくらを片付けるということで、皆寂しい反面、やる気満々で取り組み始めました。しかし、例年と比べて固いと思われた今年の雪は、一晩でよりカチカチに固まっており、大人の力でも太刀打ちできないほどでした。先の見えない作業に「こんなの終わるわけがない…」と弱音も聞こえましたが、お互い声を掛け合い取り組むうちに、『自分たちが作ったかまくらなのだから、自分たちで片付けきりたい』という想いの高まりを感じました。最後は、早く済んだ班も他の班を手伝うという形で、全員が一丸となって、ほぼ平地まで戻すことができました。完璧には片付けられなかったものの、みんなで協力してできた、という達成感は大きかったようで、帰りのバスの中でも思い出話に花を咲かせている姿がみられました。



## <キャンプ総括>

今年のかまくら作りは、「メンバー一丸となって、その班ならではのかまくらを作る」ことを目標としており、そのために、発想力を高める看板作りプログラムを設けました。どの班も、看板作りで固めた個性豊かなイメージに向かって、かまくら作りを進め、立派なかまくらを完成させることができました。そして三日目、本当はかまくらを片付けた後、ソリ遊びのプログラムを用意していました。しかし、かまららの片付けが間に合わず、どうしようか…と考えていたリーダーに、全班が一致団結して、「ソリ遊びをするより、すべての班のかまくらを片付けきりたい」という意思をみせつけてくれました。この強い意思には、リーダー全員が驚かされました。皆は、楽しみにしていたソリ遊びを自ら犠牲にして、自分たちの作ったかまくらに愛着と責任を持って、時間ぎりぎりまで作業を続けました。その後の子ども達の顔は晴れ晴れとしていて、達成感に溢れていました。普段の生活の中で、彼らにとって、このような試練を自分に課すという機会はなかなかないと思います。楽しみにしていたソリ遊びは残念ながらできませんでしたが、かまくら作りキャンプ全員が一丸となってひとつのことに専念できたこの機会は、なにもものにも変えられない大切な思い出となったはずです。 (岡田 早百合・伊藤 希)